山口県立大学におけるCALL教材導入について—現状と課題—

The Use of CALL Software at Yamaguchi Prefectural University:
Research Notes regarding Current Conditions and Future Utilization

ウィルソン・エィミー
Amy WILSON
池　田　史　子
Fumiko IKEDA

1．英語カリキュラム改革

山口県立大学では，平成16年度，実践的なコミュニケーション能力に重点を置いた英語カリキュラム改革が行われた。その中心は，大学入学直後のTOEIC IP（Institutional Program）のスコアと学生自身の英語習得の必要度による，自己選択制のクラス分けを強化するとともに，補習クラスを新設するというものである。

すなわち，英語カリキュラムのうちの「実践英語」に於いては，先ずTOEIC IPのスコアが200点に達しない場合，補習クラスとしての意味を持つ「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」の受講が義務付けられる。200点に達した後には，将来的に就職・留学等の目的で高度な英語習得の必要な学生向けの「英語集中コース」と，高度な英語を習得する必要性を持たない学生向けの「英語標準コース」との選択が，学生自身の希望によって行われる。

また，入学前及び在学中にTOEIC試験に於けるスコアが650点以上を得た学生は，「実践英語」８単位のうち最大で４単位までの受講が免除される。「英語標準コース」の学生であれば，残りの４単位のみを履修してもよいし，「英語集中コース」の学生であれば，「英語Ⅸ・Ⅹ」を受講せずにTOEICのスコアに合わせて，「英語特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」のどれかを受講することになる。

2．CALLの導入

カリキュラム改革の検討に合わせ，平成14年頃から，学生ごとのレベルと意欲，目標に対応できる英語学習教材としてCALL（Computer-Assisted Language Learning）システムの導入が検討され始めた。導入に先立って，CALLシステムの機器やソフトの選択，効果・問題点等を知るために，英語科目担当の教員を中心に，導入実績のある大学（広島市立大学，同志社女子大学，慶応大学藤沢キャンパス等）の調査を行った。

調査結果を踏まえた学内検討の結果，平成15年度の国庫補助を受け，平成16年３月に，LL教室にCALLシステムが導入されることになった。

先ず，LL準備室にCALL教材専用サーバー，LL教室にクライアントパソコン19台，CALL教材として「ALC NetAcademyスタンダードコース（株式会社アルク教育社）」と「ELLIS（English Language Learning and Instruction System, Inc.）」が入った。そして，この２つの教材とLL教室の管理は，本稿の執筆者ウィルソンと池田が受け持つことになった。

しかし，既存のLL機器に加えて大量のコンピュータが導入されたことによって，LL教室の電力容量が大幅に不足し，最大許容量を超えてしまうという事態が発生し，急遽，電気容量の変更工事を行うこととなったため，CALLシステムを学内に公開する日程が大幅に遅れた。８月の夏期休暇に入るとすぐにLL教室の電気工事を行い，８月末には予ねてより予定されていたとおりに県費でクライアントパソコン24台とレーザープリンタ３台の追加が行われた。

その間に，管理者は，LL教室利用規約の作成，LL教室のウェブサイト（http://www.ll.ypu.jp/）の公開準備を進め，ソフトのインストー

ルや設定，クライアントパソコンの設定などの作業を行った。また，「平成16年度山口県立大学研究創作活動助成」を受け，CALL教材の学習者向け説明会や授業用に必要だったLL教室専用のマルチメディア・プロジェクタを購入した。このことにより，パソコン1台を教員用とし，プロジェクタに常時接続して使用することが可能となり，その後のオリエンテーションに大変役立っている。

そして，9月には「ALC NetAcademy夏季集中クラス」を企画実施し，後期開始の10月1日と同時に，全学部1・2年生と全教職員の登録も終了，本格的に運用が始められることになった。(ELLISの方は，より高度な英語学習ソフトであることに加えて，インストールや運営も複雑なので，現時点では「英語集中コース」の学生だけが試用段階である。)

3．平成16年度のALC NetAcademyの利用状況

ALC NetAcademyは，本学に在籍中であれば，登録人数無制限の契約となっているため，前述のように全学部すべての1・2年生と，全教職員へIDとパスワードを発行した。なお，3年生以上の上級生へは，個人の申請によって希望者のみ個別に登録を行っている。11月18日現在の登録者数は合計885名で，内訳は1年生360名，2年生312名，3年生以上（大学院生を含む）31名，教職員169名である。

1・2年生は，各英語コースの所属するクラスによって，週2～3時間以上(集中コース，基礎コース)から週30分以上（標準コースや旧カリキュラムの講義）と，講義の成績の一部となる学習を義務付けられているクラスもあれば，担当教員から全く指示がなく学生の自主性に任されているクラスもある。就職や留学のための英語学習の必要性，ALC NetAcademyの操作方法や具体的学習方法の提案については，アルク教育社の担当者によるオリエンテーションが3回，LL教室管理者によるオリエンテーションが5回行われた。

LL教室は，CALL教材の導入に伴って語学自習を中心とした教室となったため，講義での使用は前期後期とも1クラスのみとなった。開室時間は，通常の講義期間と同じで朝8時40分から夕方5時40分までとした。学生は講義使用の時間を除いて，昼休みを含め，LL教室に自由に出入りすることが出来，自習をすることが可能である。

学生は，LL教室に入ると，入り口に置かれた個人の学習記録簿を取り，学習が終わると学習時間や感想反省などを書き入れ，各学部のファイルに戻すという仕組みになっている。学習記録簿は，各クラスの担当教員も学生のものを自由に閲覧できる。それに加えて，サーバー上の学習記録を管理者が毎月印刷して担当者に報告し，また各教員も「サブ管理者」として登録されているので，自らもサーバーに接続して学生の学習成果を見ることが可能である。

レベル診断テストが終了し，実際に「リスニング力強化コース」「リーディング力強化コース」「TOEIC(R)テスト演習コース」へ学習を進めている学生は，11月18日現在のところ，1年生117名(32.5%)，2年生63名(20.2%)，3年生以上(大学院生を含む)22名(71.0%）である。(登録者数のうちの割合。)

全学教員・事務職員への利用の呼びかけは，学内メーリングリストを通じて行った。学生だけの利用ではなく，全学教職員も揃って英語学習に取り組む雰囲気を作り出すことで，学生とのコミュニケーションも取れ，学生の学習意欲の向上にも寄与することが期待されたが，11月18日現在での教職員の利用（レベル診断テストを終了した学習者）は13名(5.3%)に留まっている。

4．ALC NetAcademy夏期集中クラスの試み

本学に於いては，英語カリキュラム改革の一環として，全学部1年生に対し，入学した直後（4月第1週の入学式翌日）と1年生終了時（翌年2月予定）にTOEIC IPを受験させ，1年間の学習成果を測ることにしている。今年度はALC NetAcademy導入初年度ということもあり，学生たちの学習成果にALC NetAcademyがどのように関与したかを測ることが困難なため，夏期休暇を利用して，「ALC NetAcademy

夏期集中クラス」を企画実施し学習成果を測ることにした。夏期集中クラスのデータ分析を踏まえて，今後のデータ収集の方法や学習指導の参考になればと願っている。

前期講義終了後の補講・前期末試験期間に，各英語クラスへ募集用紙を配るとともに，学内掲示板や学内メーリングリストで教員や学生に周知を図ったところ，十数名が興味を示した。しかし，学習期間が企画時期と合わず，また，仕事と重なる等の理由により，最終的には８名の学生の参加に留まった。全員が国際文化学部に所属する学生であったが，学年は１年生から４年生まで，TOEICやTOEFL歴がかなり低めの参加者から，欧米留学から帰ったばかりでかなり高いレベルのスコアを持つ参加者までと，非常に幅広い参加者であった。

学習内容は，９月１日から約２週間に亘って，ALC NetAcademyを合計30時間学習し，その初日と最終日にTOEICの模擬試験を受けさせることで，そのスコアの変化を測るというものであった（プレテスト・ポストテストでのTOEIC模擬試験は，*"Longman Preparation Series for the TOEIC Test, Second Edition"* を使用した）。30時間という学習時間の設定は，週に２時間の指示を受けて前期に15週学習する学生と総時間数を合わせたものである。また，これは「長期型」と「短期集中型」の比較という意味も持つ。学習初日には，ソフトの使用方法の簡単な説明を行ったが，学習方法やリスニング力強化コース・リーディング力強化コース・TOEIC(R)テスト演習コースの時間配分は指示しなかった。学生自身がそれぞれにあった時間帯に学習し，毎回の学習終了時に学習記録簿を付け，毎日の学習の終わりにはメールで管理者に詳細な学習日記を送信した。中には，遅れて学習を開始した学生や３週間かかった学生，途中から参加を断念した学習者もいるが，ほとんどの学習者は非常に真剣に取り組んでいた。

学習前のプレテストと30時間の学習後のポストテストとの比較から明らかになったことは，以下のとおりである。

夏期集中クラスの成果について

学習効果（TOEICスコアの上昇ついて）

●参加学生全員の合計スコアが上昇した。平均上昇は91点（リスニング31点，リーディング78点）。上昇幅の最も大きい学生Ａは185点の伸びが見られ，上昇幅が一番小さい学生Ｈでも35点の伸びが見られた。

●学生Ｆは学習時間が極端に少なかったにもかかわらず（学習時間４時間），プレテストとポストテストとでは60点のスコア上昇が見られる。学習効果の分析に当たっては，「試験慣れ」の現象も考慮する必要があると思われる。

●合計点数の最も上昇した学生Ａは，学習終了２週間後に，欧米へ研修に行く予定があり，学外でも他の語学学習をしており，意欲が非常に高かったと思われる。特にリスニングの伸びが著しかったこと（130点上昇）が特徴的である。

●プレテストの点数が最も高かった２名の学生（学生Ｇ：770点，学生Ｈ：830点）が，上昇幅は最も小さかった。これは，先行データと一致している。

●以上の学生を除けば，学生Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅの４名のスコアは，全員80～135点の上昇が見られ，短期集中型学習においてのひとつの目安になると思われる。また，プレテストでは最もスコアの低かった学生（学生Ｂ：350点）の伸びが２番目に高く（135点），より低レベルの学生には，このような短期集中型学習プログラムは特に効果があると言えそうだ。（学生Ｂは，ソフトの終了時に画面上の終了ボタンを使わずに×印を使用したため，サーバーに学習履歴が正確に保存されなかったが，実際には20時間以上の学習を行っていた。）

●今回の短期集中型学習では，リスニングの伸びは，２名（学生Ａ：130点，学生Ｆ：85点）を除いて比較的少なく，リーディングの点数の伸びが大きかった。今後，「長期型」の学習効果の調査分析を行い，「短期集中型」と「長期型」の学習効果の違いと使い分けを分析し，学生指導に役立てることが必要と考えられる。

【夏季集中クラスの模擬TOEICスコア比較表】

	直近の英語試験		プレテスト		学習時間			ポストテスト		差	
	種類	時期	L	R	L	R	T	L	R	L差	R差
	点数		合計点		合計時間			合計点		合計差	
学生A	TOEIC	2003.9	365	305	4	3	2	495	360	130	55
	490		670		9			855		185	
学生B	TOEIC IP	2004.4	200	150	1	0.5	1	200	285	0	135
	320		350		2.5			485		135	
学生C	TOEIC IP	2004.4	450	280	9	7	3	475	350	25	70
	570		730		19			825		95	
学生D	TOEIC IP	2004.4	275	255	6.5	6.5	13	250	370	-25	115
	425		530		26			620		90	
学生E	TOEIC IP	2004.4	325	215	7	3	10	350	270	25	55
	385		540		20			620		80	
学生F	TOEIC	2004.2	320	215	2	1	1	405	330	85	115
	545		675		4			735		60	
学生G	TOEFL ITP	2003.冬	400	370	12.5	8	8	405	415	5	45
	427		770		28.5			820		50	
学生H	TOEFL ITP	2003.5	470	365	8.5	9.5	4	470	395	0	30
	525		830		22			865		35	
								平均差		31	78
										91	

L＝模擬TOEICのリスニングセクション，又はALC NetAcademyリスニングＮ力強化コースを示す。
R＝模擬TOEICのリーディングセクション，又はALC NetAcademyリーディング力強化コースを示す。
T＝ALC NetAcademy TOEIC(R)テスト演習コースを示す。

ALC NetAcademyに対する学生の感想

夏期集中クラスに於いては，毎日の学習の終わりに，メールで管理者に学習内容や感想等を詳細な学習日記として送信してもらった。以下は，その一部である。(原文のまま。)

【ALC NetAcademy全体の感想】

学生G：なかなか自分で学習しようと思っても，どのような教材を使ってやるかとかどのようにしてやるかを自分流に考えるのも難しいし，なかなか続かない。なので，このような場や機会があって，よいコンピューターシステムがあると，すごくいいなあと思った。これまで自分からLL教室を利用することがそんなになかったけれど，これを機にこれからも大いに利用したいと思った。(2004.9.11)

学生H：パソコンでの学習に慣れるのに苦労しそうだなと思いました。最初のあたりは先生がおっしゃってたように，目がかなり痛かったです。最初の判断テストで決まったレベルはずっと変わらないんですよね。学習していけば当然レベルも変わってくると思うのですが，いつ自分の最初のレベルよりも上のレベルに挑戦すべきかという判断をどのようにつければいいでしょうか。レベル診断テストが１回だけではなく，途中でも何回かできれば今の自分のレベルを知れていいなと感じました。(2004.9.1)

【リスニング力強化コースに対する感想】

学生A：リスニングを１レッスン行なった結果，１時間かかりました。ガイドに従ってやったところもあるし，自分で勝手にやった部分もありました。説明の時に教えてもらったが，normal をまず聞いて，そのあとにfast や faster, expert を聞き，最後に再び normal を聞くとゆっ

くり感じ，聞きやすかった。今日は1時間しかやらなかったけど，あっという間に過ぎ，特に苦痛と感じることもありませんでした。(2004.9.2)

今日は，リスニングのクリントン大統領の演説を聴きました。ほかのものと違い，本人の生の声なので，クリントン大統領自身の話し方があったと思いました。そのためか，少し聞きにくかったです。クリントンの演説は難しそうだったので，ずっと避けてたのですが，聞いてみたらクリントン大統領の特徴が出ていたので楽しかったです。少しはまりそうです。気づいた点としては，注釈で，日本語が現れてくるときに，発音もしてくれたら嬉しいなと感じました。(2004.9.17)

学生D：リスニングは，速さを変えて何度も聞くことができるところが良かったです。(2004.9.17)

学生G：Listeningでは，First Readingのときに「何となくこういう内容かな」というのを理解できるまで聞いてからQ&Aをやり，間違った部分をチェックして，Discoveryで詳しい内容把握をするようにした。Discoveryでは，聞き取れなかった部分や意味が分からなかったりした単語を確認したり，文章の意味を確認したりした。そのあと，一つ一つの文をまずはslowで聞いて，音がつながっているところやアクセントが置かれている部分や語句を確認し，自分も英文を見ながら聞こえてくる音に続いて発音してみた。そのあとは，normalのスピードで同じことをやって，今度は，英文を見ずに聞こえてくる音に続いて発音できるかどうか試してみた。normalのスピードで続けて発音するのは，英文なしだとなかなか難しい部分もまだある。しかし，そのあとでfastのペースで聞いてみると，かなりクリアーに聞こえた。まだfasterのペースだとはっきり聞き取れない部分があるけど，まあ地道にやっていこう。日本語訳は一番最後に見るようにした。そんなこんなで，Listeningにはけっこう時間がかかった。(2004.9.10)

Listeningは星3つだとけっこう楽に聞けるようになった。クリントンさんの演説⑤は聞き取りにくかった。人によって話し方があるから難しいけど，リズムをつかむと聞き取りやすくなるなと思った。(2004.9.15)

Listeningは，そのときそのときの集中力や問題によって点数が左右されやすいから，まだ力が定着しているわけではないのかもしれない。(2004.9.17)

学生H：音の速さをいろいろ変えて聞いてみたり，単語帳も使いました。私は単語帳の機能が好きです。とても役に立つ♪先生がおっしゃっていたようにいくつか問題を解いた後にReviewに戻って復習というのであれば，Reviewのスピードはたぶん Normal ぐらいなので少し遅いように感じました。(2004.9.2)

【リーディング力強化コースに関する感想】

学生A：リーディングについてはガイド通りにやらずに自分に合ったやり方でやっていこうと思います。リーディングは，始めの方で日本語の訳がでてくるのでそれを見てしまったら，あとから行なうセクションはもうすでに内容がわかっているので楽しくないし，英文を見ても日本語の訳のほうが先に思い浮かんでくるので自分のためにならないと思いました。なので，次からは自分で考えたやり方を行なおうと考えています。自分のやり方は，まず最初にspeed readingのkeywordをやってからfirst reading, quiz time, speed readingのphrase 1, 2, keyword, pacedをやり，discoveryの注釈，日本語の順にやっていこうと考えています。(2004.9.3)

学生C：リーディングの力がついたように感じます。英文を読むのも前のようにおっくうではなくなりました。(2004.9.24)

長文の内容は「雑学！」という感じで，知識が増えて，勉強になっておもしろいです。(2004.9.28)

学生D：大学に入ってから毎日文を読まなくなったし，読む量が足りていないんだと思います。(2004.9.14)

リーディングはまだ読む早さは遅いけれど，どれくらいのスピードで読むのを目標にするか，そのためにどうするかをいろいろ考えさせられ

たと思います。(2004.9.16)
リーディングは読むスピードが具体的に分かるので，目標の速さを知ることができ，速く読むために自分の頭をどう使うかも考えさせられました。(2004.9.17)
学生G：Readingも，はじめは「こんな内容かな～」というのが理解できる程度にさらっと読んでQ&Aをやり，間違ったところをチェックした。そして，Discoveryの部分で，分からない単語や意味を確認するようにした。ここでも，日本語訳は一番最後に見て確認するようにした。今日はゆっくり目のペースでやったので，約1時間かけて1単元やったけど，Readingの方は，1時間に2単元くらいできそうだ。(2004.9.10)
一番最初はWPMが100なかったけど，じっくりじっくり読むんじゃなく，速く読むこつをつかめてきたように思う。WPMも必ず100以上になるようになった。phrase読みとkeyword読みが役に立っているなと思った。(2004.9.15)
Readingの文章読解力は定着しているが，文法知識や語彙力にはムラがあるので，Readingに関してはその点がこれから課題である。(2004.9.17)
学生H: パソコンのほうで試験を受けてみて感じたのは，パソコンの画面に書いてある英文は読みにくい!!(2004.9.1)
やはりリーディング疲れます・・・。文を読んでると目が痛くなりますね。(2004.9.3)
キーワードだけが出てくるリーディングの方法はとても気に入っています。どこが重要なのか，どのような単語に目をつけて読むべきなのかがよくわかります。(2004.9.14)

【TOEIC(R)テスト演習コースに関する感想】
学生A：今日はTOEICの演習のほうもやりました。最後に採点したあとに，解説がありますが，そこにイディオムがのってたりするので，そのページにも単語帳がほしいと思いました。あと，注釈のとこしか日本語を見ることができないので，辞書の機能も入っていたら便利だと思いましたが・・・。(2004.9.16)

5．今後の課題

最後に，以上の「ALC NetAcademy夏期集中コース」の分析と，運営上の課題を踏まえ，来年度以降のLL教室の運営についての考察を行ってみたい。

ALC NetAcademyの使用についての課題

繰り返しTOEIC試験を受験し，また，「ALC NetAcademy TOEIC(R)テスト演習コース」のみを学習することにより，いわゆる「試験慣れ」状態に加えて，結果としてスコア上昇のみが目標になることで実践的英語力が身に付かない恐れがある。「試験慣れ」の実態と影響を把握し，対応策を検討するためには，今年度ALC NetAcademyを使用しなかったグループを対照群とした比較も必要であろう。

今回の本学での夏期集中コースは，約2週間で30時間の学習を行うという，「短期集中型」学習であった。本学に於いては，短期集中型学習であってもリーディングを中心とて80～135点のスコア上昇が見られ，それはより低レベルの学生に顕著であった。しかし，他大学では「短期集中型」学習よりも継続的な学習の方が能力上昇につながるというデータもあり，さらに検証する必要があると考えられる。そこで，今回の夏期集中コースに参加した学生に対し，２回目，３回目のポストテストを行い，スコアの伸び・英語学習への意欲が維持されているかどうかの追跡調査を行う予定にしている。また，平成17年春にも，規模を拡大し，より幅広い層を対象とした短期集中型学習を企画し，分析を進める予定である。

ALC NetAcademy「短期集中型」学習にも十分な学習効果が期待できるとすれば，学生の就職活動対策として上級生の学習に利用することも考えられる。また，地域住民を対象とした公開講座や，高校生や県内の英語科教員の夏休みを利用した講座開設の可能性も広がる。ただし，現在のアルク教育社との契約は，本学に所属する教職員および学生に限定したものとなっているため，契約形態の変更やそれに伴う予算措置が必要となる。

運営上の課題

今後は，CALL教材を英語以外の中国語・韓国語（本学の科目名はハングル）・外国人のための日本語等の語学教材へ広げる必要がある。また，現段階での本学学生の英語力レベルには学生ごとに大きな開きがあり，現行英語ソフトではすべてのレベルの学生への対応が難しいことから，より低レベルの英語教材導入が必要であると考えられる。さらに，いわゆる「大学全入時代」の到来によって，現在の学生に比べ，より語学力に劣る学生の入学も想定されるとすれば，そのような幅を持った学生の語学力に応じた補習教材も不可欠になってくる。

CALL教材は，限られた人員の中で，学生個々のレベルや学習スピード，学習意欲に対応できるすぐれた教材であるが，現在の管理体制（2名の管理者）には限界がある。ソフトの管理，学生への学習上の対応，各教員への学習状況の報告に加えて，サーバーやクライアントパソコンの保守・点検作業が生じているからである。将来的に導入ソフトを増やし，学習対象も拡大するとすれば，管理に要する業務量も膨らむことが予想されるため，それに応じた管理体制の充実も図られる必要がある。

また，今回，教職員からのアクセスが少なかったことからも，CALL教材が学内の教職員から関心を持たれているとは言い難い状況にあると考えられる。上述のとおり，全学一致して語学学習に取り組む雰囲気作りを行うことが英語カリキュラム改革を成功させるためには必要不可欠である。そのためにも，語学担当教員を中心とした学内教職員の協力が大切である。

また，現在学生からの要望で最も多いのが，LL教室開室時間の延長と，自宅からのCALL教材へのアクセスに関するものである。セキュリティー上の問題も考慮しつつ，VPN（Virtual Private Network）サーバー設置についても，費用対効果を十分見極めながら検討する必要もあろう。

参考文献

Lougheed, Lin (1996) "*Longman Preparation Series for the TOEIC Test, Second Edition*", Addison, Wesley & Longman Publishers

国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会（1999）『第9回TOEIC活用実態報告書』

THE DAILY YOMIURI (2002.10.18) "What you can expect from TOEIC preparation"

折本素(2004)「コンピュータ自習ソフトの授業活動への組み込み方—インプット活動に偏らない双方向性授業—」ALC NetAcademyワークショップ資料（於大阪大学）

アルク教育社(2004)『ALC NetAcademyキャンパス導入レポート』株式会社アルク教育社

（実践英語，多文化コミュニケーション／日本語学）